

中之郷

# 浄妙寺 を訪ねて！

蓮如上人が、徳川（松平）が、土井利勝が…



本堂  
大屋根に

山号	稻荷山（とうかざん）
宗派	真宗大谷派
本尊	阿弥陀如来
創建年	1258年（鎌倉時代）
住職	マサヒロ 天白真央（33代目）



◆参道

◆三門（山門）… 明治23年（1890）三河一円の寄進により落成。  
\*本堂に、救主・阿弥陀如来、山門に教主・釈尊がいらっしゃって、  
浄妙寺境内全体が大無量寿經の世界になっている。

◆本堂鬼瓦



平成13年の本堂修復屋根瓦葺き替え時に保存。

◆鐘楼堂…昭和40年建て替え。 ◆納骨堂…昭和52年落成。



各戸より分骨して納骨し、  
檀家中でお守りしている。

◆本堂

9:43

◆庫裏



建て替え（平成3年1月起工。平成4年10月落成）

嘉永6年（1853）に再建された。144坪。



会の初の活動。会員が本堂に集まってきます。



皆で椅子を並べて、準備はOK。  
事務局市川さんは出席チェック。

9:49



記念すべき、最初の見学訪問先とした浄妙寺。  
開始にあたって山田会長から。

9:59

お話しいただけるのは、  
天白義暉（ぎょう） 前住職

m(\_)\_m



【天白義暉前住職のお話】

昭和53年住職任命。平成19年退任。

## 浄妙寺の歴史 そして中之郷

『浄妙寺の開創』（開創＝初めて寺を開くこと。寺院開創の創立者は開基。創建＝初めて建てる）

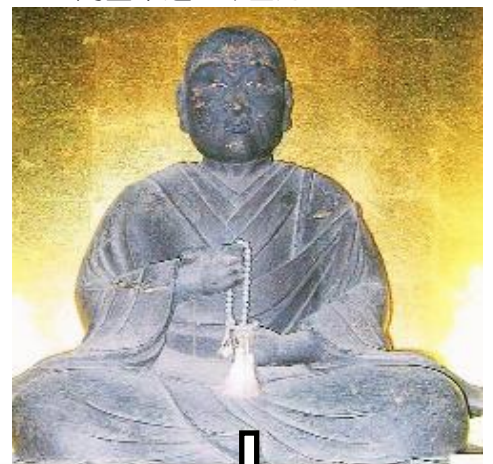
□開基； 信願房（藤井信親） 1268年没（78歳）  
親鸞聖人の高弟二十四人の一人。

◆開基木造…本堂向かって右に

- 建長8年（1256）、関東高田門徒と一緒に三河に来て、各地で布教活動を行う。
- 正嘉2年（1258）、赤浜郷（鎌倉街道・矢作川の渡り東）に一道場（真宗の聞法道場）を建てる。 □開創

【前住職のお話】

- 浄妙寺は、1258年、この地に建ちました。当時のこの地域は、矢作川のほとりにあり、交通の要衝でした。渡しでは、荷物・人から金をとっていました。真継伸彦（まつぎのぶひこ）さんによると、金をとっていたのは、どこにも所属しない無頼漢みたいな集団だったということです。そういう人たちを和田門徒といい、この中之郷にもいたと言います。
- 稻荷山（とうかざん）浄妙寺と呼ぶようになったのは三代目住職了義（1268年没 78歳）のときからです。この3代目までは、住職は関東（高田派）から来ました。



北余間



真継伸彦（まつぎのぶひこ）

小説家。昭和7年（1932）京都市生まれ。京大独文科卒。仏教を核に、信仰と政治の関係や、人間性不在の問題などを追究する。蓮如を研究。一向一揆をテーマに「鮫」で文壇デビュー。



- 中之郷は農業に適し、稲が良くできました。そういうことが稲荷山（とうかさ）という山号につながっています。中之郷は肥沃な土地で、農産物が沢山できるんですが、男は戦争にも駆り出されました。中之郷には、農業をしながら、便利なことができる「人夫」さんが沢山いたんです。

◆ご由緒書きの石碑 三門の脇



太子信仰が基盤となり真宗信仰が広まる

- 韓国・慶州に仏国寺があります。仏国寺の近くにある石窟庵（阿弥陀如来の石仏）は、東向きに建っています。日本の仏教の始まりは、聖徳太子の要請により、この仏国寺から東漸（とうぜん…東の方へ次第に伝わり広まること）が始まり、はじめに隠岐の島に伝わり、次いで、兵庫の加古川、そして奈良の法隆寺に伝わってきたということだと思われます。仏教は東に伝わるという習わしがあるのです。
- 加古川の真宗寺は、彼岸の時に本堂の裏を開けると陽がさし、阿弥陀仏に後光がさすようになります。
- 聖徳太子は、その仏教を中心として国を治めていきました。この中之郷にも、2月22日の聖徳太子のご命日を中心に集まって、聖徳太子の教えを聞いていく講の組織ができ、集まって、皆で何でも相談して物事を決めるようになったのです。

その中に松平の人たちが入ってきました。農家と一緒に講に参加したのです。そのようなところに、関東から高田派の人たちが、真宗の教えを持ってきました。和田門徒の人たちが最初にその教えを受けたのです。それが、この辺が真宗が広まった（広まっていく）土地である理由です。

『蓮如上人と浄妙寺』

■蓮如上人御寿像

延徳3年（1491）77歳 自画像

□十代住職；慶順 1498年没

- 本願寺の「蓮如上人」に師事。（高田門徒から本願寺門徒になる）
- 上人が、土呂（土呂村・現在の福岡町）に坊社を建て（1468年）三河を教化されたとき、浄妙寺詰所を設け上人に昵近（じっきん；慣れ親しむ）。弘法（くほう；仏の教えを世間に広めること）のために尽くした。

蓮如上人の御寿像を授与される

- 1491年、上人77歳の御寿像。  
\* 寿像＝生前中に描かれたものをいう。



【前住職のお話】

- 浄妙寺には蓮如上人の寿像があり、今も、他所のものとは比べると、きれいに残っています。この御寿像は「やまとえ肖像」の優品と言われています。石山合戦（浄土真宗本願寺勢力と織田信長との戦い。本願寺法主の顕如が石山本願寺に籠って戦った）の最中も、この寿像がたびたび奉安（尊い物を安置すること）されました。

外部情報；“蓮如上人の肖像はほとんど絵像で、実像の古いものはないだろう。絵像はかなりあるが後の模本が多く、また当初の寿像は傷みがひどく表情不明のものや、後補の手が入り、当初の顔形が変わってしまっているものがほとんど” ということらしい。

『徳川（松平）と浄妙寺』

□十四代住職；順超 1534年没 □ 順超没後 宝幢院 （妻が赤渋の地で剃髪得度した）

- 松平六代信忠の息女と結婚。  
息女＝松平七代清康（家康の祖父）の兄弟（家康の大伯母にあたる）
- 1534年、清洲城主織田信秀征伐に、長男超義とともに出陣。父子共に戦死。
- 次男勝奥が幼少のため、妻が剃髪得度をして、宝幢院となり寺を継ぐ。

天白（現在の上和田町南天白）に本堂を建てる

- 宝幢院は、天白の地に草庵を結んだ。
  - 天文15年（1546）、松平広忠（家康の父・宝幢院の甥）から、上和田天白の地を寄進される。のちに、岡崎奉行の連署による、“広忠・元康（のちの家康）が天白の地750石を末代寄進する”という安堵状を受ける。
- 天白（現在の上和田南天白）に七堂伽藍を造営して浄妙寺を再興。これを天白殿（浄妙寺天白殿）と呼んだ。姓は、藤井姓から「天白」姓になる。



## 「三つ葉葵」の紋も許可

●同時に、浄妙寺の紋も三つ葉葵の紋を使うことが許可された。

□十五代住職；勝奥 1612年没

- 永禄6年（1563）秋～永禄7年（1564）2月28日に、三河一向一揆。勝奥は、松平家と姻戚関係にありながら、一向宗として敵対して戦った。真宗門徒側は一揆に敗れ、寺は国外追放、宗門は禁制になったが、浄妙寺は縁故によって追放は免れた。
- 勝奥は、一代僧衣をまとわず、俗形のままであった。



## 天白より、中之郷(現在地)に移転

- 慶長8年（1603）と12年（1607）の、矢作川の洪水により、堂宇・什物・記録など流出。現在地中之郷に移転した。

□十六代住職；超意 1661年没

- 1647年に、13代門主・宣如上人から、直筆の六字名号と、内陣地の寺格を受ける。（寺格；各教団ごとに定めた寺院の格式）

□二十六代住職；義肇 1882年没

- 嘉永6年（1853）「本堂」再建 ⇒ 現本堂（築166年、平成13年に修復を行っている） 11間四面・144坪。
- 愛知県懲役場教誨師（きょうかいし）第1号。尾張三河で有名。「輪燈はずしの白衣」と言われた。（白衣は色がつくのでなかなか着られない）

## 【前住職のお話】

- 本堂は建ってから150年を超えています。間口は3間です。近くには間口3.5間の寺もあり、これは大きいですが3間は普通です。（3間≒5.45m）昔は沢山のお参りがありました。油がこぼれてしまうので、ご輪灯を外しておかなければいけませんでした。

□三十二代住職；義曄

- 昭和53年（1977）～平成19年（2007）住職30年。
- 平成3年2月22日、「土井楠（どいくす）」が、岡崎市の『ふるさとの名木』に指定される。  
\* 樹齢400年、樹高22.5m、幹回り3.4m、根回り4.4m、枝張り22.0m

## 【前住職のお話】

- 岡崎市の『ふるさとの名木』に指定されているクスノキが、お墓の中にありますが、これは「土井楠」と名付けられています。徳川三代将軍家光の大者になった土井利勝の母は隣町土井町の出身で、この寺に小さい時から来ていて、この寺で亡くなったんです。玉等院と言われるのですが、そんなことから、墓はこの寺にあるんです。楠木は、その墓木として植えられたものが、今、大木になっているんです。玉等院の亡くなられたのは1605年ですから、400年を超えていると思われます。
- 私の雅号（本名以外につける風雅な名のこと）は「木南」です。叔父は木端（こっば）でした。木南と雅号したのは、名前が難しい「義曄」ですので、簡単にただけです。木の南を一字にすると楠になります。お気づきなように「土井楠」にちなんでいます。

## ◆「土井楠」



終了！！

皆、まじめに“勉強”できました。お疲れ様でした。次回は「法性寺」です。

